慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	南北戦争とアメリカ労働階級
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1929
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.23, No.3 (1929. 3) ,p.393(61)- 444(112)
JaLC DOI	10.14991/001.19290301-0061
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19290301-0061

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

註七〇　Hasbach, Untersuchungen. Ss. 409-410.　に引用するところによる。

ハスバッハのいふやうに、リカルドオ並にマルサスにあつては、その經濟學說の哲學的基礎づけにおいて、甚だ貧弱ではあるが、以上の引用は、リカルドオ並にマルサスのスミス社會觀並に國家觀に對する態度の一斑を示すものといふことが出來ると思ふ。而して、自由主義の國家觀は、ロックに始まり、スミスによつて、その自然神敎的樂天觀の立場から、大成せられたのであるが、尙ほ、法律的並に經濟的意義において、彼の國家觀を一層徹底せしめる思想家が存在したのである。彼等は功利主義の立場から、自由主義の國家觀の理論的基礎づけを行つたのである。彼等とは、ジェレミイ・ベンタムとジョン・スチュアト・ミルを意味する。

（一九二九・二・一七夜稿了）

南北戰爭とアメリカ勞働階級

園　乾　治

目　次

一、一八六〇年代初の經濟狀態
二、南北戰爭に對する勞働階級の態度
三、南北戰爭當時の勞働運動（一八六一——一八六五年）
四、全國同業勞働組合（一八六四——一八七三年）

一、一八六〇年初の經濟狀態

一八六〇——一八八〇年に至るアメリカに於ける勞働組合運動を論ずるに先立つて、其時代の一般經濟狀態を概說しやう。此時代のアメリカは南北戰爭と戰後の經營に多忙であつたが、勞働運動は殆んど不知不識の裡に始めて其全國的特徵を顯著ならしめたのであつた。此時代に於ては純然たるアメリカ的グリーン

バック（綠裏紙幣）の理論及び八時間勞働問題があり、東洋勞働者の排斥に關する紛爭が起り、勞働組合票が創案せられ、最初の全國的勞働協約が成立し、政府に勞働局が新設せられ、八時間勞働法及び「騷擾」幷に「脅迫」に對する法律が制定せられ、又最初の全國傭主組合及び最初の全國勞働黨が組織せられた。洵に此時代はアメリカ勞働史に於ける全國化（nationalization）の時代であつた。而して其背後には經濟生活の全國化があつたのである。

一八五〇年代は鐵道の建設過度の時代であつた。一八五〇年に八千マイルの延長を有した鐵道は一八六〇年には三倍半の增加を示せる三萬マイルに達し、從來水主陸從であつた通路は逆に陸主水從の有樣を呈するに至つた。加之、一八六〇年以前の鐵道は何れも東西の聯絡幹線の建設をなしつつあつたのであり、其數は七を數へるのであるが、何れもバファロー又はピッツバークを終點とし、それより更に西方を目的とするものは無かつた。然るに一八六〇年代に於ては南北戰爭の爲に鐵道の建設マイル數は前代よりも減少したが、然も鐵道業の發達は市場を全國化し、製造工業中心地の競爭を增加し、幹線の建設にも劣らざる劃期的事件をなした。而してそれは貫通輸送の實施と關係鐵道の合同とであつた。南北戰爭の開始後間も無くミスシッピー河を利用して西方の物產を東方に輸送することが出來なくなり、鐵道によらねばならぬこととなつたが、貫通輸送によつて積換の不便を免れ大に輸送を迅速ならしめた。而して鐵道合同の最も著名なものはペンシルベニア鐵道、イリー鐵道、ニュー・ヨーク＝セントラル及びハドソン河鐵道の三會社の合同であり、フィラデルフィア及びレッディング鐵道其他の合同も亦重要なものであつた。

斯の如き交通範圍の擴張によつて、地方市場は僅々十五年の間にアメリカ大陸の半を領するに至つた。斯くて同業者間の競爭は增加し且つ激烈となつた。而して此競爭の激烈となりたることと、生產者と消費者の分離せることとは、仲介商人を工業に於ける重要人物たらしむるに至つた。此仲介商人の存在は勞働者及び事業主の双方にとりて壓迫を感ぜしめ、殊に農夫に對しては此外に鐵道も亦苦痛を加へたのである。斯の如くして「資本」に對抗する「生產階級」の聯立を形成することとなつた。

此外南北戰爭の直接の影響として生產勞働者を軍隊に召集し、四年の後に再び之を生產勞働者として注出したことも數へられるが、それよりも重大であつたのは南北戰爭の間接の影響として紙幣の增發による物價及び生活費の未曾有の變動があつたことである。是より先一八五七年の恐慌に續く產業不況によつて、勞働組合の發達は大に阻止せられたのであるが、其中能く存續したものは同業者の組合を糾合して全國組合を組織せざるを得なかつた。而して斯の如き事情の下に於て組織せられたる重要なる全國組合は『鑄物工國際組合』(Molders' International Union)と『機械工及び鍛冶工全國組合』(National Union of Mechanics and Blacksmiths)とであつて、何れも一八五九年の創立に係る。

鑄物工組合の指導精神はウィリアム・エッチ・シルビス(William H. Sylvis)によるのである。彼は後にアメリカ勞働運動の第一人者となつた人で其生涯は時代の典型である。一八二八年ペンシルベニアの一寒村アーマーに生れ、父が家業の製車業に失敗したので、彼は一八三七年鑄物工場に徒弟となり、職工となり、鑄物工場の共有者となつたが、其後一八五二年にフィラデルフィアに於て再び職工となつたのである。フィラデルフィアに於ける鐵鑄物工組合は一八五五年組織せられたのであるが、シルビスが之に參加したのは彼の從業せる鑄物工場にストライキがあつた一八五七年のことである。而して彼は間も無く組合の記錄係となり、此處に始めて勞働組合運動者としての生涯が始つた。然るに此頃の鑄物業は悲境にあり、各地の地方組合間に全國組合を組織せんとする强烈なる感情が起つてゐたので、主としてシルビスの努力によつて、一八五九年七月五日十二組合の代表者が會合をなして、全國組合の設立を見るに至つた。而して其後順調の發達を遂げ、一八六〇年には四十四組合の加盟を得たが、ストライキの頻發によつて援助を求める者が續出し、其第三回の大會に於てはストライキの敢行に就て愼重なるべきことを地方組合に促す決議を採擇した。

機械工及び鍛冶工組合のジョナサン・シー・フィンチャー(Jonathan C. Fincher)も亦アメリカ勞働史の重要なる人物であつた。彼の組合は一八五八年四月フィラデルフィアに於て加盟者僅に十四名を以て組織せられ、翌年全國組合の成立となり、漸次盛大に赴き、一八六〇年十一月には全國各地に亘る五十七組合二千八百名の

加入者に達した。併し乍ら一八六一年春南北戰爭の勃發によつて悲境に陷り、同年秋の大會には只四州から代表者が派遣せられたのみであつた。

リンカーンの選出は激烈なる失業期を後に控へてゐた。而して一般に賃銀勞働者はそれを戰爭の豫感に原因するとなして、公然と反對運動を試みることとなつた。ケンタッキー州ルイスビールに於て勞働者の民衆大會が開催せられ、現下の政治上の危機は兩派の政治家の責任であること、勞働者は民衆を二派に分たんとする單なる抽象論に眞の又は緊切なる利害關係を有せざることを決議した。同樣の運動はシルビスによつてフィラデルフィアに於ても行はれ、其他の諸地方にも續々と行はれた。而して一八六一年二月三十二日の全國大會には數州より代表者が派遣せられ、勞働者の示威行列及び公開演說會が開催せられ、ケンタッキー州選出の代議士クリテンデン（Crittenden）の妥協案に贊成し、戰爭を否とする決議が採擇せられた。併し乍ら四月十二日一度戰火が相交べられるや、北部の勞働者は從前の主張を一擲し、總ての地方組合はリンカーンの召集に應募した。（Commons and Associates, History of Labour in the United States, Vol. II, pp. 3-12; Perlman, History of Trade Unionism in the United States, p. 42; Beard, Short History of the American Labour Movement, pp. 64-65; Bimba, History of American Working Class, p. 137）

二、南北戰爭に對する勞働階級の態度

南北戰爭に就ては、それが奴隷解放を唯一の原因とするものである、北部は黑人種の自由の爲にのみ戰つたのである、リンカーンはそれを希望する外に他意なかつたものであると言ふ傳統が盛んである。併し乍ら斯の如き解釋は誤謬であり、誤解を惹起す。南北戰爭の原因は全然經濟的であり、政治的である。即ち南北兩州の產業上幷に社會制度の衝突に出づるのであつて、其本來の性質に於て人道的であつたのではない。

北部諸州に於ては奴隷の存在を許すべき肥沃なる土地が無かつたから奴隷制度は確立せられなかつた。商業及び工業は之を必要としなかつたのである。然るに黑人奴隷は南部諸州に於ける農業即ち棉花、米穀、煙草の栽培には適當であつた。それ故に第十八世紀に於て農業を主要產業とする南部諸州には黑人奴隷が集中したが、商業及び工業を主要產業とする北部諸州に於てはそれを見ることが

無かつた。斯く南北兩部に於て其制度を異にしたるに拘らず、之に就て久しい間何等の衝突は起らなかつた。蓋し尙ほ總てを容るるに足る十分の餘地が存在したのである。北部の事業家は奴隷制度を認容して敢て異議を挿む者無く、若し反對ありとすれば、それは却つて南部に主として見出されたのである。

然るに一八〇〇年代に入るや前述の如き機械及び發明の時代が出來し、北部諸州の工業は愈〻發達したるのみならず交通の發達によつて市場の範圍が擴張せられたので、其勢力は漸次南部諸州をも侵すこととなつた。其一方に於て南部諸州に於ては棉油の發明は棉花の栽培を一層有利なる事業たらしめ、南部の農業家は土地を求めて漸次北進し、生產を擴張せんとするに至つた。而して南北兩州の產業上の利害の衝突は早晚何等かの形態を以て必然現はれるべきであつたが、それは政治權力の抗爭となつた。北部諸州は輸入品に對する關稅を引上げて製造工業を保護せんが爲に政治上の權力を自家の掌中に收めんとし、反之、南部諸州は關稅の高率なることは自家の利益に相反することを見出し、如何なる關稅にも反對した。而して斯の如き抗爭の中心は聯邦上院であつた。蓋し此處に於ては各州より選出せる二名の議員より組織せられ、勢力の擴張を圖る爲に、新に合衆國に加盟する州がある度毎に其州には奴隷制度を許すべきか禁ずべきかに就て激烈なる抗爭が繰返されたが、一八三七年ミシガン州の加盟せる當時は禁止せる州十三、許容せる州十三にして、勢力の均衡が維持せられてゐた。

然るに間も無く抗爭はニュー・メキシコ及びカリフォルニアに波及した。北部諸州は是等の州をして奴隷を禁止せしめんと欲し、南部諸州は是等の州をして許容せしめんと欲した。而して此問題は一八五〇年の協定によつて解決せられた。即ちカリフォルニア州は禁止州とせられ、ニュー・メキシコ及びユタは屬領となし、而して北部諸州は遁走せる奴隷を捕縛し舊主に引渡すことを援助すべき法律が發布せられた。然るに一八五四年ネブラスカ及びカンサスの二屬領が統一せられ、兩州が奴隷を禁止する州たるか許容する州たるかは住民の意思によることとした。其處で是等の地方には南北兩部から出來るだけ多數の人を送り、投票の際過半數を制せんとし、衝突し干戈を以て相見へるに至つた。次で一八五四年の聯邦議員の選擧戰には南部の利益を代表せるデモクラット黨は完全に敗北し、北

部の勝利は明白となつた。而して一八五六年北部諸州はレパブリカン黨を組織し、一八六〇年の選擧に於て勝利を占め、エブラハム・リンカーン(Abraham Lincoln)が大統領に選擧せられたのである。之によつて南部諸州は政治上の權力が彼等の手を離脱したことを自覺し、最後の解決は武力に訴へる外無く、到底平和の裡に爲し得られざることが明瞭となつた。而して南部諸州は一八六一年三月四日アラバマ州モンゴメリーに於て大會を開催し、聯邦を脱退し、新に組織せられたる聯合國(Confederate States)の政治の基礎を、奴隷制度を公然と承認せる憲法の採擇によつて決定した。之は南部諸州の北部諸州に對する公然の挑戰であつた。

レパブリカン黨及びリンカーンは奴隷制度廢止の爲に奮鬪したのであるか。決して然らずと言はねばならぬ。レパブリカン黨は南北戰爭の半に至るまで奴隷制度廢止の希望を表明しなかつたし、リンカーンも同じく表明しなかつた。彼は既に奴隷制度の存在するところに於ては其儘とし、只其北部に波及して北部事業家の優越を脅かすことを許さぬのであつた。曩に一八三七年議會が奴隷問題に就て決議を採擇せる時、彼は之を以て或程度に於て奴隷制度に干渉するものと爲して、友人ストートンと共に强硬に抗議を行つた。「彼等の見る處によれば合衆國議會には憲法上斯の如き權能が無いと信ずる」と言つてゐる。加之、一八四五年、南北戰爭の漸次近づきつつある時、イリノイ州の或人々がレパブリカン黨の奴隷制度反對の態度を確乎たらしめんと欲したるに就て、リンカーンは十月三日友人に與へた書翰に於て「吾等奴隷禁止州の者は國の統一の爲め又自由(背理と思はれるかも知れないが)の爲に、他州の奴隷を放任するのが義務であると思ふ。之と同時に、他の一方に於ては、奴隷制度が自然に衰亡することを防止したり、又は新しき存在の餘地を見出すことを、直接間接に意識して援助してはならぬことも同じく明瞭である」と述べてゐる。又同じ頃一上院議員に與へた返事の中に「彼等(奴隷)を解放し、彼等を政治上、社會上吾等と同等ならしむべきか。私自身の感情は之を許容しない」と述べ、又「私は黑人と白人との間に政治上及び社會上の平等を齎すことを企圖しない。兩者の間には體質上の相異があり、私の思ふところによれば、全く平等なる立場に立ちて共に生活することは永久禁止せられるであらう」とも述べてゐる。[illegible]

南北戰爭の直前、一八六〇年二月二十七日リンカーンがニュー・ヨークに於てなしたる演說に於て、彼は奴隷制度を廢止する希望を有せざるのみならず、レパブリカン黨は其廢止運動と關係なく、或は奴隷の主人に對する暴動せんとする紛爭にも關係なきことを極力言明してゐる。一八六一年三月四日大統領として爲した演說に於て、リンカーンは南部諸州に於ける奴隷の解放に反對の態度を繰返して表明し、且つ逋走せる奴隷を引捕へて舊主に引渡すべき法律を忠實に施行することを誓約してゐる。南部諸州には此時既に合衆國から分離して交戰せんが爲に銃砲の用意が整備してゐたのであつた。加之、南北戰爭の最中に於てもリンカーンは奴隷廢止に興味を有せず、合衆國統一の爲にあらゆる努力を向けて居ることを公然と宣言し、ホレース・グリーリー（Horace Greeley）に對する彼の書翰には「此戰爭に於ける私の主要なる目的は合衆國の統一を維持するにあり、奴隷制度の救濟又は破壞にあるのではない。若し私が國の維持を一人の奴隷をも解放せずして爲し得るならば、私はさうするでせう。若し私が總ての奴隷を解放することによつてそれを爲し得るならば、私はさうするでせう。若し私が一部の奴隷を解放し、他を其儘とすることによつてそれを爲し得るならば、私はさうするでせう」と述べて合衆國の維持の外他意なきことを披瀝してゐる。

一八六一年八月三十日ジョン・チャールズ・フレモント（John Charles Fremont）將軍はミゾリーに派遣せられてゐたが、合衆國に反抗して武器を取り又は取らんとせる總てのミゾリー州民の總ての財產は沒收すべく、其者の奴隷は自由民となすべき旨の宣言書を公布した。然るに之に對してリンカーンは十分の承認を與へず、陸相カメロン（Cameron）將軍が黑人を武裝せしめんと提案せるをも抑止し、其後ハンター（Hunter）將軍の軍事上の解放をも許容しなかつた。彼が愈〻奴隷解放を宣言したのは開戰後二年を經たる一八六二年九月のことであつて、一八六三年二月一日限り、武器を止めて北軍に服從せざる諸州の奴隷を解放すべきことを宣言したのである。而して其時機の到來したる際、彼は南部諸州の黑人をして北軍に來り投ぜんことを勸告し、之によつて北軍の先陣を鞏固ならしめた。或交戰に於ては彼等の參加なかりせば敗北してゐたものもあつたであらう。此事に就てはリンカーンが一八六四年四月四日エー・ジー・ホッジス（A. G. Hodges）に與へた書翰に

述べてゐる。之を以て見るにリンカーンは極力奴隷解放に反對し南北戰爭によつて强制せられる迄同じ態度を維持したのであつた。（Bimba, pp. 115-122; Oneal, The Workers in American History, pp. 168-172）

却説、然らば奴隷制度幷に南北戰爭に對する一般民衆の態度は如何であつたらうか。第一に奴隷自身の態度であるが、南北戰爭直前四百四十萬に達した黑人奴隷は、大多數無智にして抑壓せられ自由人の生活を夢想も爲なかつた。併し彼等の中にも先驅者があり、其多くは抗爭の爲に生命を損し健康を害したが、然も次第に新しき鬪士が現はれ、又北部諸州及びカナダに遁走する多數の奴隷もあつた。又或者は絶望の結果主人を襲擊し、遂に同じ非命の最後を遂げた者もあつた。而して一八六三年の解放令以後北軍に投じた黑人はリンカーンの報告によれば十三萬であつたと言ふ。次に南部諸州の白人に就て論ずるならば、彼等の總てが黑人奴隷の膏血によつて生活してゐたのでは無い。九百萬の白人中五十萬足らずの者が奴隷を所有せるに過ぎず、其中百名以上の奴隷を所有せる者は大凡一萬の白人に過ぎなかつた。爾餘の八、九百萬の奴隷を所有せざる白人は小農、手工業者又は小商人若くは勞働者として生活し、是等の者は黑人に對して反感を有し、從つて南北戰爭を自己の戰爭であると思考しなかつた。加之、多くの白人は奴隷制度の不公正を理解し、奴隷制度反對の協會も何十か設立せられてゐた。

然らば北部及び中部諸州の住民は如何なる態度を持したか。彼等の間にも同じやうに一致するところが無かつた。而して是等諸州の事業家及び政府は奴隷制度の廢止を主張する者に壓迫を加へた。それはニュー・イングランドに數百の大小紡績が設立せられ、南部諸州の奴隷の栽培せる棉花を原料としてゐたからである。然るに同地方に各種の工場が發達するに伴れて、必らずしも南部諸州の奴隷所有者と利害が一致しないやうになつた。一方には心底より奴隷制度を嫌惡せる者があり、其協會が設立せられてゐたが、一方に於ては之に極度の迫害を加へる者もあつたのである。ジョン・ブラウン（John Brown）の如きは其間に於ける最も傑出せる鬪士の一人であつた。

最後に南北戰爭に對する北部勞働階級の態度は如何であらうか。多數の工場勞働者、非組織勞働者、不熟練勞働者は、之に對して無關心であつた。併し乍ら熟練

職工――裁縫工、製靴工、大工、鍛冶工――にして組合に加入せる者は贊否の兩派に分立してゐた。而して一八四六年ニューヨークに於けるニューイングランドの勞働者大會は「吾等は南部諸州の奴隷所有者を支持する爲に武器を取らず」と言ふ決議をなしたが、一八六一年二月フィラデルフィアに於ける勞働組合の全國大會は北部に贊成し、ボストンの民衆大會に於ける勞働者は奴隷制度廢止論者を誹議してゐる。(Bimba, pp. 123-128; Carlton, Organizid Labour in American History pp. 144-159)

三、南北戰爭當時の勞働運動

（一八六一――一八六五年）

南北戰爭の最初の影響は事業の沈衰と失業の增加であつたが、其爲に勞働組合は組合員の上に非常な打擊を受けない譯には行かなかつた。『機械工及び鍛冶工組合』も一八六一年四月より十月迄の六ヶ月間に一千人の加入者を喪失し、『鑄物工組合』は全國組合たること能はず、大會を開催することも出來なくなつた。

然るに一八六二年三月二十五日及び七月十一日の法貨法は三億ドルのグリーンバック（綠裏紙幣）を流通せしむるに至り、其結果急激なる物價騰貴が起り、產業の復活、勞働者就業の增加を生ずることとなつた。一八六三年一月及び三月に議會は七億五千萬ドルのグリーンバック（綠裏紙幣）の流通を許可したので、斯る傾向は一層甚しくなり、未曾有の好況時代を出現した。併し乍ら斯る好況の結果は產業四階級、即ち商業資本家、製造業者、農夫、勞働者の間に平等に分配せられたのではない。製造品の請負を豫め契約せる商業家が最も多く利益し、次で製造業者及び商人が之に續いだ。然るに勞働者は一方に於て就業の機會が增加する利益に均霑したのであるが、其反面に於て賃銀よりも急速なる物價騰貴、生活費の膨脹に惱まされたのである。一八六二年七月小賣價格は一八六〇年に比して一五パーセント增加したが賃銀は原の儘であり、一八六三年七月物價は四三パーセントの增加に對し賃銀は僅に一二パーセントの增加に過ぎず、更に一八六五年七月に物價は七六パーセントの增加に對し賃銀は五〇パーセントの增加のみに過ぎなかつたのである。此物價と賃銀との步調の不同は生活標準を保護する爲に勞働者が同業勞働組合を組織せざるを得ざらしめたのである。

此アメリカ勞働運動の全國化の時代に於て永續的勞働新聞が始めて興つたの

であつて、當時最も勢力のあつたのは恐らくフィラデルフィアから發行して居た『フィインチャー勞働評論』(Fincher's Trades' Review) で、同紙は一八六三年六月六日創刊號を出した四ページの週刊新聞で、爾來三年間繼續した。フィンチャーは最も重要なる全國組合たる『機械工及び鍛冶工組合』の書記で、其機關として一種の月刊雜誌を有し全國の有力なる勞働指導者と交遊があつた。其中にはウィリアム・エッチ・シルビス (William H. Sylvis) リチャード・エフ・トレベリック (Richard F. Trevellick) トーマス・フィリップス (Thomas Phillips) アイラ・スチューワード (Ira Steward) 等が擧げられる。斯る關係からそれは眞に全國的勞働新聞となり一萬部以上頒布せられてゐた。

此外の有力な新聞としてはシカゴの週刊『ウォーキングマンス・アドボケート』(Workingman's Adrocate) とボストンの『デイリー・イーブニング・ボイス』(Daily Evening Voice) がある。前者は一八六四年七月印刷工のストライキの時に創刊せられ、十三年間繼續した。其主宰者アンドリュー・シー・カメロン (Andrew C. Cameron) は實際記者としての長年の努力と才幹とによつて當時の最も偉大なる勞働主筆の名聲を得た。後者は一八六四年十二月ボストンのロックアウトせられた印刷工の創始に係り、勞働新聞として又一般的興味ある新聞として成功せるものであつた。

南北戰爭の影響による勞働者の生活困難は彼等をして地方勞働組合を組織せしむるに至つたのであるが、それは恐らく一八六二年の後半より起つたことであらう。其主要動因は賃銀增額であつたが勞働機會を得んとすることにも原因した。而して地方組合增加の趨勢は、前述フィンチャーの新聞によつて詳細に知ることが出來るのであるが、特に顯著であつた一八六三年十二月より一八六四年十二月に至る一年間に於て、全國二十州を通算すれば一躍七九より二七〇に達し、就中、マサチューセッツ、ニューヨーク、ペンシルベニア三州に於て異常なる增加を示して居る。

而して此當時勞働組織の普通の單位をなして居たものは、地方同業勞働組合 (local trade union) では無くて、地方諸業勞働組合聯合會 (local trades' assembly) であつた。最初に設立せられた此種の聯合會は一八六三年三月ニューヨーク州ロチェスターに於けるものであり、次でボストン及びニューヨークよりオルバニー・バフ

アロー、ルイスビール、フィラデルフィア、ピッツバーグ、セント・ルイス、サン・フランシスコ等に於ても設立せられ、南北戰爭の終に於ては重要なる工業都市には何れも其存在を見るに至つた。

此聯合會は全國勞働組合に對して現在『アメリカ勞働聯盟』(American Federation of Labour)の爲しつつある事を地方勞働組合に爲すのであつて、其權能は單に諮問に應ずるのであつたが、加入者に最も勢力のある人々を網羅してゐたから、偉大なる勢力を擁してゐた。其處にはストライキ基金も無くストライキ給付の分配もしなかつたが、基金の蒐集を援助し、他の都市からストライキやぶりの侵入することを防禦したのである。而して今一つ重要なる職分は當時「仲間はずし」(non-intercourse)と稱せられたボーイコットを組織することであつた。併し乍ら其主力を注いだのは勞働組合の組織を進捗せしめること幷に協同店舗の設立を圖ることであり、無料圖書館及び讀書室の設備をなした處もあり、又勞働新聞を援助することも重要な職分であつた。

『フィラデルフィア諸業勞働組合聯合會』(Philadelphia Trades Assembly)の議事錄による時は、それは『フィラデルフィア家屋ペンキ塗工組合』(Philadelphia Journeymen House Painters' Association)の唱導によつて一八六三年九月發起設立せられ、翌年一月には圖書館と無料讀書室、『フィンチャー勞働評論』の支持、特許狀の獲得を急務とする決議を採擇し、三月の規約に於ては本聯合會は勸告を爲し得るに過ぎざること、一組合三名の代表者を選出し得ること及び會費等を規定し、附則を以て政治問題又は宗教問題は何時たりとも許さざることを明記してゐる。而して設立後一年を出ずるに二十八の地方勞働組合が加盟し、アメリカ第一の强力なる聯合會となつた。(Commons, pp. 13-25; Carlton, History and Problems of Organized Labour, p. 56; Beard, pp. 66-68; Ely, Labour Movement in America, p. 67; James and Associates, Labour Movement, pp. 341-345)

南北戰爭中の攻擊的勞働組合運動は傭主間に於ける同樣に攻擊的なる團體の發生を招かないでは措かなかつた。ストーブ鑄造業に於ては是より先其勞働者が鞏固なる組合を組織せると同樣、傭主が全國組合を組織し明白に勞働組合及び組合聯合會に對抗した。而して多くの場合に其組織は秘密に附せられたが、勞働

新聞の記錄に徵すれば殆んどあらゆる職業に就きあらゆる重要都市に斯の如き團體が組織せられてゐたのである。一の傭主組合中に數種の異る職業の代表的傭主を包括する例は『ミシガン總傭主組合』(Employers General Association of Michigan)がある。それは傭主の總組合と各種の附屬組合より成り、後者は製造業又は技術的業務の特定方面又は部門の所有者又は支配人より成るのであつた。而して總組合の職分は加盟要件として書記長の提供せる規約及び附則を遵守せるや否やを監督し、加盟組合間又は組合と其加入者間に於て紛爭の惹起されたる場合に一種の裁判所たる活動をなすのであつた。

分立せる職業の傭主組合の多數となり、且つ同一資本家に大部分支配せらるる二種以上の工業部門の結合により、多數の密接なる關係に在る職業の傭主組合が更に合同することが起つた。此最も適切にして初期の實例は『ニュー・ヨーク建築業主組合』(New York Master Builders' Association)であらう。それは一八六九年春組織せられ、ペンキ工、各種石工、屋根葺工、階段工、等が參加してゐた。又『ボストン機械業者組合』(Master Mechanics of Boston)は一八六七年三月に規約を決定し、十四種の職業に從事する事業主三十六名より成る執行委員會を組織した。それによつて同組合の性質が略〻判然するであらう。此組合は勞働者の地位を改善する爲に其權能に屬する總てを何時たりとも盡すことを主張してゐるが、此組合の書記トーマス・ディー・モリス(Thomas D. Morris)は八時間勞働の公正にして合理なることを發見することが出來ないと述べ、又組合としても「一日の勞働時間數の一般的減少は終局に於ては不公正であることが明にせられた」。而して「斯る理由に基いて十時間勞働の實行を主張するものである」と述べてゐる。

ニュー・ヨークに於ける四百名の傭主は一八七二年六月十九日十時間勞働を維持する共同動作をなす爲に大會を開催し「傭主の勞働組合以外のものにあらず」とせられる『ニュー・ヨーク傭主中央執行委員會』(Employers' Central Executive Committee of New York)は傭主組合の可能性を列擧せる文書を工業地方に流布せしめ、ストライキ等の對策をも考慮した。

勞働者間に於ても亦傭主間に於ても組合組織の有利なることを見出す場合には、それは自然第二の階梯を示すものである。即ち組合に組織せられたる勞資兩

勢力が更に大なる利益を確保せんが爲に團結することである。組合傭主は組合勞働者のみを使傭し、組合勞働者は組合傭主の爲にのみ勞働するのである。之は非組合員の組合加入を强制し、傭主は賃銀を增額することが出來る同時に、公衆に對する價格引上によつて利潤を增加することを得しむるであらう。此協定方法は「排他協定」(exclusive agreement) と稱せられ、現に建築業に多く見出すところであるが、一八六五年頃既に建築業に其實例が存する。即ち同年バルティモアーの煉瓦工は四月一日より賃銀の增額を要求する通告を傭主に送附し、且つ大會に彼等の出席を慫慂し、兩者の圓滿なる解決を得た。『煉瓦積業者組合』(Master Bricklayers' Association) は組合勞働者のみを使傭する政策を踏襲し、其後傭主は從來の賃率表を改訂した。

傭主は競爭を擊退する爲に勞働組合を承認することは敢て辭しなかつたが、勞働協約の爲に彼等を承認する希望は多く有たなかつたのである。實際に於てブラックリストを用ひ又は組合員を就業せしむることを拒絕して勞働組合の破壞を企たのであつた。傭主は事業に於ける對等の基礎に立ちて勞働者と會見することは威嚴を損することであるとの感情に支配せられてゐたのである。

勞働者の全國聯盟を組織すべしとの思想は一八六〇年の機械工及び鍛冶工の全國大會に於て論ぜられたのであるが、翌年の大會に於ては更に其具體化の爲に各地の全國組合が委員會組織の爲に委員を選出すべき決議を採擇した。併し乍ら時勢が非であつて何等の效果を齎さなかつたが、一八六四年四月に至つてルイスビールの諸業聯合會はカナダ及びアメリカ各地の諸業聯合會に、斯る組合を組織する爲に全國大會を開催するの可否の回答を求めた。併し回答が極めて多くなかつたので、八月再び諮詢し、九月二十一日に大會期日を決定した。此發起者の意思によれば其文書は諸業聯合會の名宛であるが、全國勞働組合の必要を十分承認して居たので、提案は國際同業勞働組合の國際聯盟たらしむることを目的とし たのであつた。「若し傭主が聯合して何れか一の職業部門を破壞せんと企るが如きことがあるならば、他の部門に其味方をなし、同情後援を與ふるであらう。」斯の如くしてルイスビールの聯合會の希望するところは、現在のフランスの勞働總同盟 (C. G. T.) と同じく全國同業組合と諸業聯合會とが平等に代表せられる組織を

有することであつた。而して全國聯盟の他のもつと重要なる利益は、召集狀の言ふところに從へば、ストライキの全廢と勞働協定の成立とであつた。聯盟は非常に强力となり資本家又は傭主は是等の正當なる要求を拒絶せざるべく、又不合理なる要求は吾等と同等の地位に立ちて證據を擧示して不當なることを說明するに至るであらう」と言ふ。

指定の期日にルイスビールの聯合會の會堂に集まつた者は八州十二名の代表者であつた。是等の代表者は當初集會の目的を十分了解せざるやうであつたが、委員を選出して規約を作成し、『北アメリカ國際諸業組合聯合會』(International Assembly of North America)と命名した。而して其主要目的は「勞働者傭主間に發生する問題を解決する爲に吾人の權能にあるあらゆる善良なる手段を使用すること、兩當事者相互に利益なる活動を促進せしむる爲に努力すること、絕對必要なる時以外ストライキを中止するやう權力を活用すること、斯る權利を承認せしむる手段を獲るに必要となるべき團結を支持する最善の手段を考案すること」であつた。而して現實の給付に必要なる基金を擧ぐる爲に全國の各諸業聯合會を通じて加入者一人に付き五セントの人頭稅を定期集會に於て徵集すること」とした。

特別決議の示すところによれば、勞働者は自己の勞働の價値を判斷する權利を要求し、而して「富の創造者として、彼等は其利益に公平且つ平等に參加し得る權利を資本と均等に享有すべきである。……併し斯く明瞭に根本權利を規定する其第一着手として、兩當事者の相互に滿足する賃銀基準を採用する爲に傭主と協議して賃銀を決定することを勸告する」と言ふ言葉に協調主義が確められてゐる。其他の決議には巡回編成員を置くものがあり、切符支拂制度に對する反對があり、消費者協同組合運動を推奬する勸告等もあつた。

ルイスビールの大會は殆んど何等實際上の效果を齎さなかつた。それは全國聯盟の痛切なる必要を感ぜざる組合が構成し、賃銀の增額は殆んど例外無く地方同業組合によつて成就せられ、又法律上の爭議を決裁する爲に全國的機關を必要とせざりしに因るのである。又『フィラデルフィア諸業組合聯合會』(Philadelphia Trades Assembly)はルイスビール大會に代表を派遣することを拒絕した。シルビス、フィンチャーの如き最も强大なる全國組合の役員にとつては、提案の如き全國

組合の必要が無かつたのである。而して右大會の後に地方聯合會が國際聯合會を組織し、地方組合の加入者に費用の賦課をなすは越權であるとの聲明書を公にした。尙ほ國際聯合會の第二回の大會は一八六五年五月デトロイトに於て開催の筈であつたが遂に立消となつた。

勞働者の他の方面の活動として消費者協同組合を擧げることが出來る。而して廣く世間の注意を受けた其第一の實質的努力は一八六二年十二月『フィラデルフィア、ユニオン協同組合』(Union Co-operative Association of Philadelphia)の設立であつた。此組合の發起者にして會計係であつたトーマス・フィリップス(Thomas Phillips)は一八五二年イギリスより移住した製靴工で、ロッチデール制度に刺戟せられたのであつた。而して始めは小規模であつたが、間も無く市内數ヶ所に支部を設立し、漸次ニューヨーク、ペンシルベニア、マサチューセッツ、ロード・アイランド、ミシガン、オハイオー、メイン等の諸州に設立せられ、遂にあらゆる重要産業都市に其設立を見るに至つた。而して南北戰爭の終熄と共に物價下落によつて消費者協同組合の利益が減少し、ストライキが失敗したので、後には生産協同組合が發達するようになつたのである。(Commons, pp. 26-41; Perlman, pp. 52-53.)

四、全國同業勞働組合

（一八六四――一八七三年）

或意味に於て何れの産業發展の時期でも、之を指して過渡變遷の時代であると言ふことが出來るであらう。併し乍ら一八六〇年代を過渡期、變遷時代と稱する場合には特に重要なる意味を含むものである。現代に於て吾人が産業の進化と稱する場合には、一般に、技術的進化を思考してゐるのであるが、然も吾人は如何なる技術的變革も、一八五〇年代に於ける鐵道合同による市場の突然の擴張が總ての産業に與へたる影響よりも、偉大なる影響を殘したものはないことを忘れてゐる。而して全國市場の創成は大半の産業に於ける價格決定をなす諸勢力の變動を惹起し、從つて産業階級間の爭鬪に最も普遍的效果を伴はざるを得なかつた。

勞働組合運動界に於ては市場の全國的となりたることは全國勞働組合の誕生を招來した。一八三〇年代に於ても既に「全國」勞働組合の企圖があつた。印刷工幷に製靴工の全國大會の如きは其例であるが、それ等は永續的のものでないのみ

ならず「全國」と稱するも近隣の町村を含むのみに過ぎなかつたのである。それ故に一八六〇年代に入つて始めて永續的にして眞の意味に於ける全國勞働組合が發生したと言ふべきである。而して一八六〇年代に於て全國的となるに至つたに就ては四個の異りたる部類の原因が存在する。

第一の、而して最も大なる原因は同一市場に於て異りたる地方の生産物が相併馳することである。此場合には全國的となることは最も廣汎に達するのであるが、勞働組合の條件を維持する爲には、各地の競爭條件を同一ならしむることが必要であり、勞働條件、取引規約、ストライキ等を支配する爲に間然するところなき全國組合を組織することになるのである。ストーブ職工に其例を見るのである。次に生産物の競爭範圍が未だ特定地方に局限せられてゐる處に於ては町外職工の移動者と地方勞働組合に加入せる職工間の就業の競爭が全國組織をなさしむる原因をなすのである。印刷工は其例をなし、此處に於ては全國組合の職分は旅職工の支配のみで、其他の點に就ては地方組合が殆んど獨立してゐた。第三の原因は傭主組合の組織であつた。傭主組合によつて地方勞働組合が脅威を受ける場合に於て、やがて全國組合の組織に至るは必然のことであつた。第四の原因は機械の利用と勞働分割の採用によつて無經驗者が就業し得る機會が增加したことである。製靴業の如きは一八六〇年代に工場工業制度を樹立したのである。而して是等の諸原因は何れも孤獨で作用したのではない。それぞれの産業によつて重要原因もそれぞれ異り、其結果として全國組合の勢力にも、地方分權のものもあり、中央集權のものもあつた。

全國組合の創成は一八六四年以前にも存在した。併し顯著なる發展は此年に起源を有するのであつて、前年僅々一又は二を數へたるに此年には四の全國組合が新に組織せられ、而して南北戰爭前の全國組合は殆んど何れも同じやうに急激に膨脹したのである。斯の如き全國組合の進展は十ヶ年繼續したが就中事業界の活躍の著しい一八六三年より一八六六年に至る間には新に組織せらるるもの實に十を數ふるに至つたのである。『左官全國組合』(Plasters' National Union)『鞣革職工全國組合』(National Union of Journeymen Curriers)『造船工及船茹工國際組合』(Ship Carpenters' and Caulkers' International Union)『葉卷煙草製造工全國組合』(National

Union of Cigar Makers）は一八六四年に出來『馬車製造工國際組合』（Coach Makers' International Union）『塗工全國組合』（Journeymen Painters' National Union）『暖房工全國組合』（National Union of Heaters）『裁縫工全國組合』（Tailors' National Union）『大工及び指物工國際組合』（Carpenters' and Joiners' International Union）『煉瓦工及び石工國際組合』（Bricklayers' and Maisons' International Union）は一八六五年に出來たのである。然るに一八六六年産業不況期に入り、其影響は勞働界にも現はれたのであるが、一八六八年恢復期に入るや、同年『セント・クリスピン騎士團』（Knights of St. Crispin）『鐵道車掌大分團』（Grand Division of the Order of Railway Conductors）一八六九年『セント・クリスピン娘子團』（Daughters of St. Crispin）及び『山羊皮鞣工組合』（Morocco Dressers）等七の全國組合が組織せられた。併し既存の組合は膨脹したけれども、前年に於ける程急速な膨脹を遂げることは出來なかつた。然るに一八七〇年より七三年に至る間は事業界は正調を保ち『北アメリカ桶工國際組合』（International Coopers' Union of North America）『鑛夫全國組合』（Miners' National Association）『機關車火夫組合』（Brotherhood of Locomotive Firemen）の外九の全國組合が組織せられ、且つ既成組合の內部の發展にも大に見るべきものがあつた。

斯の如くして此十年間に總計二十六の全國組合が組織せられ、既成の組合をも合計すれば實に三十二に達し、加入者に就ては正確なる統計を缺くのであるが一八六九年八月ニューヨーク『ヘラルド』通信員の概算に據れば大凡十七萬に達し、又同じ頃他の勞働指導者の推算せるところに據れば、六十萬であると稱せられる。併し一八七〇——七二年に於て加入者三十萬と註すれば當らずと雖も遠くはないであらう。

要之、一八六〇年代は全國勞働組合の活動によつて之を勞働運動「全國化」（nationalization）の時代と稱するは妥當であらう。此時代は實に勞働組合の活動の根柢に於て、又役員及び加入者の日常の行動に於て、而して思惟の方式に於て、一大變動のあつた時代であつた。（Commons, pp. 43-48; Perlman, pp. 42-43; Bimba, pp. 143-144; Beard, pp. 69-70; Carrton, History. p. 59; Groat, Introduction to the Study of Organized Labour in America, p. 34; Ely, p. 62）

『鐵鑄物工國際組合』（Iron Molders' International Union）はアメリカ勞働組合の代表で

ある。鐵鑄物工は生産物標準化により、全國市場の壓迫を受け、疾に一八五九年全國組合を組織したるのみならず、傭主側も全國組合を組織せるが故に、兩者の角逐となり、何れも他を壓倒し得ざるを以て、一八九〇年勞働協約制度を採ることになつたのである。加之、此組合は或時は勞働組合主義を放擲して協同組合又は一般勞働改革に立入つて活動したのであつた。産業不況が緩和せられるや否や『鐵鑄物工組合』會長シルビスは全國に亘る組合の組織に著手した。然るに事業界の殷盛によつて單に傭主の讓歩を得る爲にのみ組合を組織するを以て十分であり、併せて賃銀の增額、就業規則の適用、特に徒弟に關する規則の勵行をもなすことが出來た。勞働組合の斯の如き成功に驚愕したる傭主は急遽傭主全國組合を組織することとなり、一八六三年九月ルイスビール、ニュー・オルバニー、ジェッファスンビールの鐵鑄物業者が會合して『オハイオー鐵鑄物業者及び機械製造業者組合』が出來、『鑄鐵物工組合』が賃銀を決定すること、徒弟數を制規することに反對することを主義とし、同組合の書記は全國同業者と連絡を取り、不當なる要求を貫徹せんとしてストライキをなしたる職工を使傭せざること、同樣の要求を企てたる仲間の姓名を通告し、組合を脱退するか要求を撤回するまで就業せしめざること等の動議を可決した。西部の斯る運動と同じ運動が東部に於ても行はれた。此地方の事業主も『鐵鑄物工國際組合』の事業經營に對する干渉を感じ、一八六四年三月ニュー・ヘブンに於て會合し、同月ニュー・ヨークに於て再び會合した。而して後者にはニュー・イングランド、ニュー・ヨーク、ニュー・ジャーシー及びペンシルベニア諸州から代表者が派遣せられた。

併し時代は未だ好況期であつて、大西洋沿岸だけの運動に限られて居り、一八六六年まで眞の全國傭主組合は成立するに至らなかつた。一八六六年に於ては南北戰爭の終熄と共に事業沈衰期に入り、近年勃興せる勞働組合を打破する機會が到來したので、三月四日オルバニーにアレガニー山脈の西部から代表者が參集し、『ストーブ製造及び鐵鑄物業者アメリカ全國組合』(American National Stove Manufacturers' and Iron Founders' Association)を組織し、規約及び決議を採擇し、鑄物工の徒弟數に對する干渉を排斥し、工場委員會を拒否することとした。

是等の決議が鑄物工を刺戟したことは勿論であり、トロイ、オルバニーに於ける

六百の職工は大會を開催し、工場内に右決議の貼紙のある限りストライキをなすことを決議した。而してシルビスは全國組合の資金を傾注して職工を援助し、抗爭は數ケ月に亘り、結局工場委員會の存續、徒弟制規の承認、貼紙の撤去等職工側の勝利を以て終結した。併し乍ら之を以て備主組合が潰滅したのではない。同じやうな活動はクリーブランド、シンシナティ、インディアナポリス、リッチモンド、バファロー、セント・ルイス其他にも行はれた。而して抗爭は何れも數ケ月に亘り、遂に勞働組合に有利で多くの場合に其勝利となつたが若干の地に於ては賃銀の減額に服從しなくてはならなかつた。

然るに一八六七年二月シンシナティに於ける會合によつて組合はストライキを繼續することを決定し、九ケ月に亘つて抗爭した。而して此ストライキに於てシルビスが命じた組合の賦課金は、始めは多數で贊成せられたが、後には漸次反對が擡頭し加入者の脱退相次で起つた。それは即ち組合の勢力の下向を示すものであり、加ふるに不況の襲來によつてストライキは愈〻氣勢を殺減せられたのであつた。其處で『鐵鑄物工國際組合』はストライキの宣言とストライキ給付の支給に關する投票法を改正し、消極政策を採ることとなつた。勞働組合の敗北は斯の如くストライキを一時中止せしめたる以上に根本改革を惹起した。勞働運動の主要目標は賃銀制度より脱却せんとする方法の發見になくてはならぬといふことを敎へられたのである。而して此處に生産協同組合が勞働組合の活動に代ることとなつたのである。

協同組合組織のストーブ鑄造工場は一八六六年初夏トロイに設立せられたるを始めとし、間もなくオルバニーに於ても起り、其後一個年間に十個處に設立せられた。併し協同組合運動が鑄物業に侵入したる最も適切なる實話は一八六八年九月『鐵鑄物工國際組合』が『鐵鑄物工國際協同保護組合』(Iron Molders' International Co-operative and Protective Union)と改稱したことに見出すのである。「シルビスは其會長報告に於て『吾人の從來使用せる意味の團結は、結果に對する爭鬪をなすのであつて、絶えず同じやうな結果を簇出せしむる原因には觸れないのである。……總ての弊害の原因は賃銀制度である。……吾等は利潤を其之を生産せる者の間に分配する制度を採用しなければならぬ』と述べ、續いて協同組合による鑄物工場の

概要を述べてゐる。併し乍ら前記トロイの成績に徴すれば其如何に勞働問題の解決と遠く距つてゐるかを知らねばならぬ。株主は持株數如何に拘らず一人一票の投票權を有する規定であつたが、株主は間も無く資本家的見解を持ち、勞働階級の利益を增進することに熱心でなくなつた。而して他の地方に於けるストーブ製造業者より注文を受けて、低廉に迅速に其引受をなし、全然競爭事業者に使傭せらるる勞働者に對する影響は眼中に存しなかつた。

併し乍ら勞働組合の活動が絕望の儘であつたのではない。製造業者間の競爭が激烈であつたので、共同の敵――鑄物工組合――に對する共同戰線は脆弱とならざるを得なかつた。勞働組合から最早大なる危險の生ぜざることが判ると、愈個人的又は部分的利害が擡頭して來た。現に此狀態を利用してオルバニー及びトロイのストライキは起つたのであるが、事業界の好轉によつて、傭主組合の必要は更に感ぜられなくなつた。而して一八六九年に入るや事業界の好況、傭主組合の消滅、協同組合の無效によつて鑄物工組合は再び勞働組合の本領に立歸つた。ストライキを嫌惡する態度は廢せられ、協同鑄物工場は瓦解した。(Commons, pp. 46; Perlman pp. 54-55; Ely, pp. 64-65; Beard, pp. 72-75; Bimba, p. 143; Hollander and Barnett, Studies in American Trade Unionism, pp. 221-224)

鑄物工が鬪爭主義の最高の代表であるならば機械工は理想主義者又は理論家の地位を占むるものである。一八六〇年より一八七〇年に掛けて一般勞働運動の方向を嚮導せるは彼等であつた。而して其代表者は多藝多能の勞働記者フィンチャー、八時間勞働の理想主義者アイラ・スチューワード(Ira Steward)アメリカ機械工の思想を代表するパウダーリー(Powderly)であつた。南北戰爭は其他の產業に於けると同樣機械工にも利益を與へたのであるが、一八六三年のニュー・ヨークに於ける機械業者組合の通達及び一八六四年のボストンに於ける製鐵業者組合の決議は、何れも賃銀の支配を目的とする如何なる團結にも反對し、現在の傭主の推薦狀を有せざる職工は、最近の移民を除く外、就業せしめざることを規定せしめてゐる。之に對して『機械工及び鍛冶工組合』(Machinst and Blacksmiths Union)の國際書記は其非を鳴し、一八六四年二月賃銀減額に苦めるニュー・イングランドの同志と行動を共にせんことを全國の組合員に訴へてゐる。併し南北戰爭後の不況に

よつて機械工全國組合は著しい打擊を蒙り、八時間勞働法の要求が勢力を得たる一方に於て、純粹の經濟方面の活動は下火となるに放任せられ、事業界の好轉まで復活しなかつた。

生產物に對する市場の擴張は鐵鑄物工組合を興し、勞働に對する市場の擴張は『全國活版工組合』(National Typographical Union)を興した。活版工の組合は既に一八五〇年頃に出現した。而して活版工組合は一八六四年の大會に於て印刷工の移住を抑止する爲に「條件付組合員」(Conditional membership)制度を案出した。之は條件付組合員章を所有する者は組合員にあらざれ共組合員と同樣の特權を享有せしめ、之に對して其者は組合の勢力の維持擴張を圖ることを誓約するのであつた。併し此制度は實行する必要が極めて尠かつたやうである。蓋し印刷工の地方執著心の强烈なりし爲である。それは全國ストライキ基金の作成が出來なかつたことにも見出される。此問題は永年論議せられ一八六六年の大會に提起せられたが、迂餘曲折の後遂に一八七一年其必要なしとせられたのであつた。

多數の全國組合が鐵道合同の間接の結果として發生したとすれば、鐵道機關工組合は其直接の結果である。小鐵道の大鐵道に合同せられた爲に不便を感じた者が、組合組織によつて大なる傭主を支配せんとするのは自然の理である。機關工の特別の不滿は從來の乘務時間に應ずる賃銀を廢めて走行距離に應ずる賃銀を實行することに發した。而して此問題は一八六三年デトロイトの大會に於て討議せられ、其處で永續的勞働組合が成立した。此組合は翌年より『鐵道機關工組合』(Brotherhood of Locomotive Engineers)と稱した。

此組合は其創立より滿一年間ダブルユー・ディー・ロビンスン(W. D. Robinson)が全心血を傾注し鬪爭的組合と爲してゐたが、敵の爲に罪過を被せられて其地位を失ひチャールズ・ウィルスン(Charles Wilson)が會長となるや著しく保守的色彩を帶びることとなつた。それは機關工の職能上輿論の支持を必要としたことに原因するであらう。併し一八六六年或鐵道にストライキが發生し、鐵道會社が新人の雇入をなしブラックリストを利用したるに對し、其對策を講究する爲にニュ！ヨ！ク州ロチェスターに於て臨時大會を開催したる時委員會は極端なる御用振を發揮した鐵道會社に對する訴願を作成し大會の承認を得た。而して其後四年間

に於て屢〻組合の保守主義を試練する事件が起つた。一八六七年の大會に於てウィルスンは同組合が德性の向上に資する功績を承認せられたるに就て、新聞、鐵道役員、僧侶に感謝し、又其成功は他の組合と組織の根柢を異にするにあると述べてゐる。次に一八六八年の大會に於てセント・ルイス地方のストライキを認可する問題に就て、ウィルスンは地方組合をして勝手に戰鬪させるを以て最善の計畫であると述べてゐる。又一八六九年ニュー・オルリーンスに支部を設立する問題に就て、鐵道會社の反對あるを見出して「其偏見の去るを待ちて組織すべきことを機關工に忠告し、一八七〇年の大會に於ては勞資協調を主張する演說をなした。斯の如き保守主義に對する反對が無かつたのではない。殊に西部に於て然うであつた。ウィルスンは之を防止せんが爲に當時全國組合の間に旺盛であつた法人たらんとする運動を利用し、一八七一年の大會に於て却つて組合を束縛する立法の草案を作成した。之は議會に於て否決せられたが、多くの組合は機關工組合の隷屬であると見て非難し、遂にウィルスンは一身に應報を受けることになつた。一八七三年十一月ペンシルベニア鐵道を首魁として多數の鐵道會社が聯合して機關工の賃銀減額を强制せるに對しストライキを敢行した。之に對してウィルスンは新聞に據つて輕擧であると非難した。而して此事は組合員の激怒を買ひ、一八七四年二月二十五日クリーブランドの臨時大會に於て遂にウィルスンは免黜せられて終つた。

ウィルスンの保守政策の特色は給付制度の迅速なる發達にあつた。機關工の業務上の危險大なる爲め營利保險會社の保險料は極度に高價で、それ故に既に一八六六年ボストンの定時大會に於て組合は遺族基金及び不具者基金制度を設立した。是と同じ頃『機關工生命保險相互組合』(Locomotive Mutual Life Insurance Association)が設立せられ、專ら前記組合員の爲に然も任意加入を以て保險を經營した。尤もそれは一八九〇年頃まで大規模に行はるるには至らなかつた。

此時代に於ける葉卷煙草製造工組合の歷史は大工場幷に勞働分割に反對する勞働組合の活動の歷史であつた。南北戰爭以前に於ては葉卷煙草業は一人稼業の小規模手工業であつたが、戰爭の勃發と共に事情は一變した。聯邦議會は大規模工場に有利なる課稅方法を採用したのである。而して之が爲に該事業は數年

を出でずして職人の手より傭主の手に歸し、大工場は小工場に代り、獨立の小企業家は賃銀勞働者となつたのであり、東部に於ては該事業は大工場に歸せずして請負人の搾取工場に移つたのである。

『葉卷煙草製造工全國組合』(National Union of Cigar Makers')の第一回の全國組合大會は一八六四年六月ニュー・ヨークに開催せられた。二十一地方組合の出席中十二はニュー・ヨーク州のものであつた。而して間も無く其組織は擴張し、一八六〇年(此年代は誤謬であらうと思ふが、姑く其儘とする)の大會に於てはカナダ及び南はケンタッキー州、西はカンサス州に亘る諸代表四十九名が出席した。而して翌年のバファローの大會に於て組織は愈々完成し、『葉卷煙草製造工國際組合』(Journeymen Cigar Makers' International Union)と改稱し、ストライキ給付を整備し、地方組合が國際組合會長の承認せるストライキを爲したる時は、有配偶者一週八ドル、獨身者一週五ドルのストライキ給付を、全組合より强制徵集せる基金より支給することとした。一八六八年及び一八六九年間に於て全國組合は愈々盛大となり、加盟組合は總數八十七に達した。

斯の如く『國際組合』は多くの困難にも遭遇することが無かつたが、一八六七年「模塑」の發明によつて事情は變革した。模塑は機械でなく手を以て葉卷煙草の型を付ける爲に抑へるのであるが、之によつて從來同一人が全工程を爲したのが各部の作業分割となり、大に生產高の增加を來した。而して此模塑の最初に實行せられたシンシナティの工場に於ては職工が個數賃銀の增額を要求し、一時承認せられたが、其後却つて減額せられたので、三百名の職工はストライキを敢行し、『國際組合』の援助によりて十八ヶ月の後、職工が勝利を贏得た。併し間も無く傭主は模塑を採用し、組合は賃銀低下を見込して自發的に之を實行するの已むなきに至つた。而して一八七八年十月の大會に於ては組合員が模塑の使用に反對したが、大勢は如何とも致方無く、遂に一八七三年公然之を承認することとなつたのである。(Commons, pp. 56-74; Perlman, p. 55; Ely, pp. 62-63; Bimba, pp. 144-145; James, pp. 184-187; Carlton, History, pp. 58-59)

他の全國組合の勃興した原因として機械の利用が擧げられる。而して其實例は製桶業と製靴業とに之を見出すのである。製桶業に於ける機械の利用に就て

一八七二年十月の『製桶工月刊雜誌』(Coopers' Monthly Journal) はセント・ルイスの一工場に於て資力の豐富なる株主があらゆる新式の改良設備を施し、少年工を使傭して大規模に桶製造をなせることを傳へてゐるが、斯る變革によつて職工は其技能によつて得たる保障を剝奪せらるるに至ることが明白である。而して一八七〇年五月『オハイオー中央組合』(Central Union of Ohio) の會長マーティン・エー・フォーラン (Martin A. Foran) の主唱によりて製桶工がクリーブランドに相會し、國際組合の成立を見、急速に普及して一時百四、五十の加盟組合があり、其後幾分か衰退したが、第二次の會長ロバート・シリング (Robert Schilling) が新原則を作成して勞働運動に於ける最も重要なるものたらしめた。彼の原則は一八七八年『勞働騎士團』の前文に採擇せられた。尙製桶工は一八七〇年ミネアポリスに於て協同組合工場を設立して先例を拓き、後七ヶ所に同樣の工場の設立を見るに至つた。一八八〇年代の中葉『勞働騎士團』が協同組合を復活せしめた時、彼等はミネアポリスの先例を記憶してゐたのであつた。

靴工組合は一八六九年及び一八七〇年に其全盛時代に達した。前年に於ては機械は勢力を十分に發揮せず、一般に熟練工は產業の基底を構成して居た。併し乍ら纖維業、製桶業及び製靴業は例外の重要なるものであつた。何れも比較的早く機械利用又は工業制度の組織に入つたのである。

製靴業の工場制度に至る第一歩は上部の縫付機械の發明及び利用のあつた一八四六年及び一八五二年に始まるのであるが、革命的變動は一八六二年の木釘打付機械の發明によるのである。而して一八六〇年より一八七〇年に至る十年間に是等機械の利用は頗る急速に普及し、其爲に熟練工は不熟練工の侵入によつて脅かされることとなつた。而して斯る不熟練工の侵入問題が以下述べんとする『セント・クリスピン騎士團』(Order of the Knights of St. Crispin) (セント・クリスピンは製靴工の守護神である) の流星的興亡を理解する鍵鑰をなすのである。

此組合は一八六七年三月七日ウィスコンシン州ミルウォーキーに於てニュートウェル・ダニエルス (Newell Daniels) 及び同志六名の者によつて組織せられた。而して極めて急速に製靴業の盛大なる各地方に傳播し、一八六八年七月の大會までに八七、一八六九年四月までに二〇四、一八七二年四月までに三二七の支部を有する

に至つた。而して加入者は一八七〇年の推算によれば五萬内外と註せられた。乃ち此組合は當時拔群の大勞働組合をなしてゐたのである。

此組合の目的は前に言及したるが如く賃銀の增額及び勞働時間の短縮を主とせず、不熟練工及び徒弟の競爭に對し熟練職工を保護するにあつた。此組合の爲したるストライキの成績は種々であつて、資金の不足と組織の不統制、殊に支部に對する本部の統制力の缺欠によつて阻害せられてゐる。併し乍ら一八六九年及び一八七〇年に於けるストライキは概して成功し、殊に一八七〇年には賃銀を支配する協定を傭主に承認せしめたのであるが、之が爲に傭主間の團結を促進し、兩者の大規模の衝突が現れるに至つた。併し乍ら一八七二年まで此組合は頑强に抵抗を繼續したが、遂に同年夏失脚し、爾來一八七四年に至るまで殆んど頽勢を挽回することなくして終つた。而して此組合が企てたるストライキの原因は之を列擧すれば、不熟練工の擊退、組合の存立を擁護すること、賃銀の減額に對する反對、非組合員と共に就業することの拒絶、請負契約の廢止を圖ること等であるが、工場又は商業資本家の經營に於て、何れが多く見出さるるかは勿論一定してゐない。

尙此組合はストライキの奏效しつつありし時代に於ても敢て協同組合を放棄したのではない。『クリスピン』の現在の要求は就業の安固と公正の賃銀にある。併し其將來は自家就業にあるとは組合の主席書記サミュエル・カンミングス（Samuel Cummings）の言ふところである。而して斯る精神はストライキの失敗せる後年に於て一層顯著となつた。既に一八七〇年頃より地方支部聯合會は委員を以て管理する基金を協同組合に利用すべきことを推奬してゐたが、マサチーセッツ州の聯合會は其爲に州政府より特許狀を下附せられんことを運動し、同樣ニューヨーク州の聯合會に於ても一八七〇年協同組合の有利なることを說いた。

一八七五年に至つて『セント・クリスピン騎士團』の復活が試みられ、此第二の組合は一八七八年まで存續し、後年『勞働騎士團』（Knights of Labour）に多數の中心組合員を供給した。チャールズ・エッチ・リッチマン（Charles H. Litchman）は一時此組合の主筆書記で後に『勞働騎士團』の書記長の重任に當つた。（Commons, pp. 78-79 Lescohier, The Knights of St. Crispin; Commons, Documentary History, III, pp. 51-54）

以上は製靴工の組合に就てであるが、鐵精錬工の組合『バルカンの子』（Sons of

Vulcan)(バルカンは火の神、鍛冶の神である)は一八五八年に興つた。其形式に於て、は全國組合であるが事實はピッツバーク地方に限られたものである。併し乍ら賃銀を決定するに滑準主義によることを定むる勞働協約を、傭主組合と締結せる最初の組合として注意する價値がある。鐵精錬工が斯の如き交渉上有利なる地位を獲得せるは、第一に其技術が獨得のものであること、第二に鐵工業が極端に地方的で組合組織に好都合であることに基くのである。前述の賃銀に關する協約は一八六五年二月に締結せられたのであるが、存續すること久しからずして間も無く勞働者は賃銀の增額を要求し、其結果、一八六七年新しき基準が成立し、七年間實行せられた。一八七五年創立せられた『合衆國鐵鋼勞働者合同組合』(Amalgamated Association of Iron and Steel Workers of the United States)は此『バルカンの子』の主要勢力を基礎とするものであつた。

以上各種の產業に於ける勞働組合に就て比較的詳細に論述したのであるが、一八六〇年代の勞働運動を其以前のものと區別するのは、特定の勞働規約を維持せんとする意識的努力にあつた。而して是が爲に最初に注意せられたのは徒弟の問題であつた。交通の發達による市場の擴張によつて、事業主は商人としての職分に多忙で徒弟の教育に沒頭することが出來ざること、又同業者との競爭激しき爲に熟練工に代ふるに徒弟又は不熟練工を以てし、勞働費用を節約して生產原費の低下を圖ることとなつた。加之、生產の規模が擴大した爲に、獨立工匠も亦其地位を失墜して工場の勞働者たらしめることも屢であつた。斯の如くして徒弟制度は破壞せられて終つたのであつた。而して此間にあつて徒弟の規律に任ずる必要は一八六〇年代の勞働組合に殘されたのであつた。

全國勞働組合が徒弟問題を處理せんとした方法は種々あつた。或場には傭主を强制して組合の決定せる規則を遵守せしめんとし、或場合には政府の立法に訴へ、又或場合には傭主をして會合協議せしめんと欲した。併し徒弟の取締を傭主に實行せしむる事は至難であつた。事業界の好況時代には徒弟の需要喚起せられ、不況時代には負擔の增加となるからである。而して印刷業者は徒弟問題解決に對する勞働組合の努力に注意を拂つた唯一の者であつた。一八六五年の『印刷工組合』(Typographical Union)の大會は勞働者及び傭主相互の利益の爲に徒弟に關す

る規則を制定し勵行すべきことを決議したのである。併し多くの場合に於て此問題は地方組合に放任せられ、全國組合の關與せるは其加入者たる資格として徒弟年限を特定した點のみであり、其年限は二年乃至三年であつた。(Commons, pp. 80-84; Ely, pp. 67-69; Bimba, p. 145; James, pp. 198-208; 271-277)

（昭和四年二月十八日稿）

「一八四八年乃至一八五四年の英國クリスチアン、ソシアリスト運動に於ける」

ジョン・マルコルム・フオーブス・ラドロウの生涯、思想及び其の貢献

野田幸一

小序

一八四八年より一八五四年に亙つて英國に於て行はれしクリスチアン、ソシアリスト運動に於て、豫言者、フレデリック、デニソン、モウリス。詩人小説家、チアールス・キングスレイの名は廣く世に知れ渡つて居る。然し乍ら當該運動に忘るべからずして然も等閑視せられし重要な人物があつた。ジョン、マルコルム、フオーブス、ラドロウその人である。

彼等は「クリスチアン、ソシアリズム」(Christian Socialism) を標榜して立つた。然し之は決して嚴格な意味のソシアリズムでなかつた事は、ラドロウ自ら一九〇八年アルバアト、ホールに催ほされし、汎英會議の席上、聲を大にして叫びしところで明かである。曰く「モウリスの信仰にして且又多數の人々を結びつける共通の力となつたる廣義なるソシアリズムと云ふ語は狹義に解せらるべきに非ず」云々と。モウリスは自ら「クリスチアン、ソシアリスト」と稱し始めたるも、彼も亦依つて立つ主義を「己の如く汝の隣を愛すべし」と云ふキリストの聖句に求め、現在の制度を背定して、社會改良に要する唯一のものを「產業に於ける新精神」と稱ふ「愛」に見出したものである。彼等の